

[目 次]

2000・10

ページ

SKYLIGHT 〈今月の焦点〉	星間雲から星への進化	富 阪 幸 治	604
EUREKA 〈研究紹介〉	分子雲コアの化学進化と星形成 —分子輝線の分布は何を表しているのか?—	高 桑 繁 久	616
天 球 儀 〈読物〉	木曾観測所・カラー撮影プロジェクトの 果たした役割	畑 英 利	626
公開講演会だより	「富士山頂サブミリ波望遠鏡で探る星の誕生」	山 本 智	634
シリーズ	《海外研究室事情(10)》 Max Planck Institut für extraterrestrische Physik マックスプランク宇宙空間物理学研究所 X線天文グループ	池 辺 靖	642
雑報	日本天文学会 早川幸男基金による 渡航報告書		644
月報だより			645
星空市場			648

[表 紙 説 明]

野辺山 45 m 望遠鏡で観測した TMC-1C 領域における H^{13}CO^+ 輝線 (コントラスト), CH_3OH 輝線 (カラスケール) の分布. 左図は全積分強度図, 中図と右図はそれぞれ $5.1\text{--}5.4 \text{ km s}^{-1}$, $5.3\text{--}5.6 \text{ km s}^{-1}$ の速度チャンネルマップ. フィラメント状の分子雲の構造の中に, それぞれの分子輝線で見られる塊「分子雲コア」が反相関になって分布していることがわかる. この結果は化学組成の異なる分子雲コアが入れ子になって存在していることを示している. このような分子雲コアごとの化学組成の違いは, 分子雲コアの進化段階の違いを反映していると考えられる.

(EUREKA 参照)

(表紙デザイン: 三宅洋子)